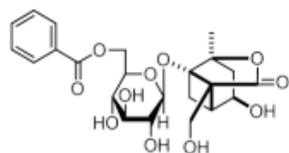


26P-am10

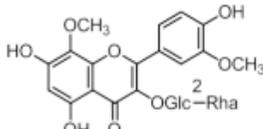
メディシナルフラワー研究: ボタンおよびシャクヤク花部の抗酸化作用成分
○小川 慶子¹, 中村 誠宏¹, 杉本 幸子¹, 月岡 淳子¹, 日丸 富紗子¹, 中嶋 総一¹,
松本 崇宏¹, 太田 智絵¹, 吉川 雅之¹, 松田 久司¹ (¹京都薬大)

【目的】ボタン科ボタン属植物ボタン (*Paeonia suffruticosa*) およびシャクヤク (*P. lactiflora*) の花部は日本や中国で観賞用として親しまれている. 今回, ボタン花部およびシャクヤク花部について, ヒト血漿 LDL に対する抗酸化作用が認められたため活性成分の探索研究に着手した.

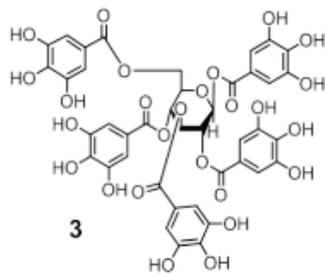
【結果および考察】ボタン花部のメタノール抽出エキスを Diaion-HP 20 カラムに付し, 得られたメタノール溶出部を各種カラムクロマトグラフィーおよび HPLC を用いて分離精製し, 21 種の既知化合物と共に新規モノテルペン配糖体 floralalbiflorin I (**1**) を単離・同定した. 同様の方法を用い, シャクヤク (*P. lactiflora*) 花部のメタノール抽出エキスから 13 種の既知化合物を単離・同定するとともに, 1 種の新規フラボノール配糖体 lactifloraoside I (**2**) を単離・同定した. 新規成分の化学構造は, 各種物理化学データの解析から決定した. 次に, ボタンおよびシャクヤク花部から得られた成分について, LDL を用いた抗酸化作用の検討を行った. その結果, 両者の主要成分である 1,2,3,4,6-penta-*O*-galloyl- β -D-glucopyranoside (**3**) などに有意な活性が認められたので報告する.



1



2



3